

かお・人・interview

2019年12月6日

新所長
 インタビュー


国土交通省 九州地方整備局
 北九州港湾・空港整備事務所 所長

瀬賀康浩氏

yasuhiro SEGA

九州の最北端にある北九州港は地理的状況の優位性に加え、工業港・物流港として町とともに発展してきた。開港130年を迎える現在も、コンテナ航路や流通網は拡大し続けている。港湾に求められるのは、地域の防災力や経済の発展を後押しする港湾整備と海上輸送ネットワークの強化だ。現在取り組んでいる事業や課題について新任の瀬賀所長に話を伺う。

Q 所長就任にあたっての抱負

北九州市は古くから貿易港として栄えてきた港湾都市です。今から130年前の明治22年(1889年)、門司港が国の特別輸出港に指定され、明治37年(1904年)には若松港が国の特別輸出入港に指定されました。そして、五市合併により北九州市が発足したのを契機に市内各港が合併し、昭和39年(1964年)4月に現在の「北九州港」が誕生しました。



▲新門司地区

町と港湾の発展が一体となったこの地において、直轄の事務所長を務めるのは名誉なことでもあり、期待に添えるよう成果を出したいと思っています。

また海港のみならず、平成18年(2006年)に開港した新たな北九州空港についても、町の発展に大いに寄与することから、その整備を担うにあたって重責を感じているところです。酒田港、高松港の事務所長のときは、事務所単体で仕事を進めればよかったものの、北九州港湾・空港整備事務所は関門航路事務所や苅田港湾事務所などの他事務所とも連携して事業を進めなければなりません。その点においても、しっかりと職務を勤めあげたいと考えています。

Q 九州や福岡県とのかかわり

旧運輸省に入省した平成2年(1990年)最初に配属されたのが、当時の第四港湾建設局下関調査設計事務所(現九州地方整備局下関港湾空港技術調査事務所)でした。そこで担当した業務は、新門司沖土砂処分場(現北九州空港)余水吐の設計などです。



宿舍が門司区の田野浦寮でしたので、その頃と比べると町の様子はかなり違います。当時は、門司港レトロ事業もなく、外国人観光客の姿も見られませんでした。

下関調査設計事務所に約1年半勤務した後、第四港湾建設局企画課(計画班) 配置換えになりました。担当は山口県、下関市、福岡県、福岡市、北九州市、宮崎県の各港湾管理者です。北九州港や福岡県管理港湾の港湾計画改訂はありませんでしたが、一部変更や軽易な変更を担当しました。

Q 当事務所の紹介(事業内容、組織、特徴)

北九州港は九州と本州とをつなぎ、古くから海・陸交通の要衝として重要な位置にあります。工業港、観光港としての顔以外にも、外貿コンテナ貨物の取扱量が全国で第8位(2018年速報値)になるなど、西日本の核となる物流港としても発展してきました。まさに、九州・山口地方の経済を支える重要な役割を担っています。その港と北九州空港の整備事業を行っているのが北九州

港湾・空港整備事務所です。

北九州市西部に位置する響灘地区では、大水深岸壁を備えたひびきコンテナターミナルが供用されており、それともなう交通量の増加に対応するための臨港道路、若戸トンネルが平成24年9月15日に開通しました。



また、東部の周防灘海上においては、平成18年3月16日に開港した北九州空港の整備も行っています。福岡空港滑走路増設事業により、北九州空港南端へ第七管区海上保安本部 福岡航空基地が移転。エプロン及び取付誘導路の整備を行っています。

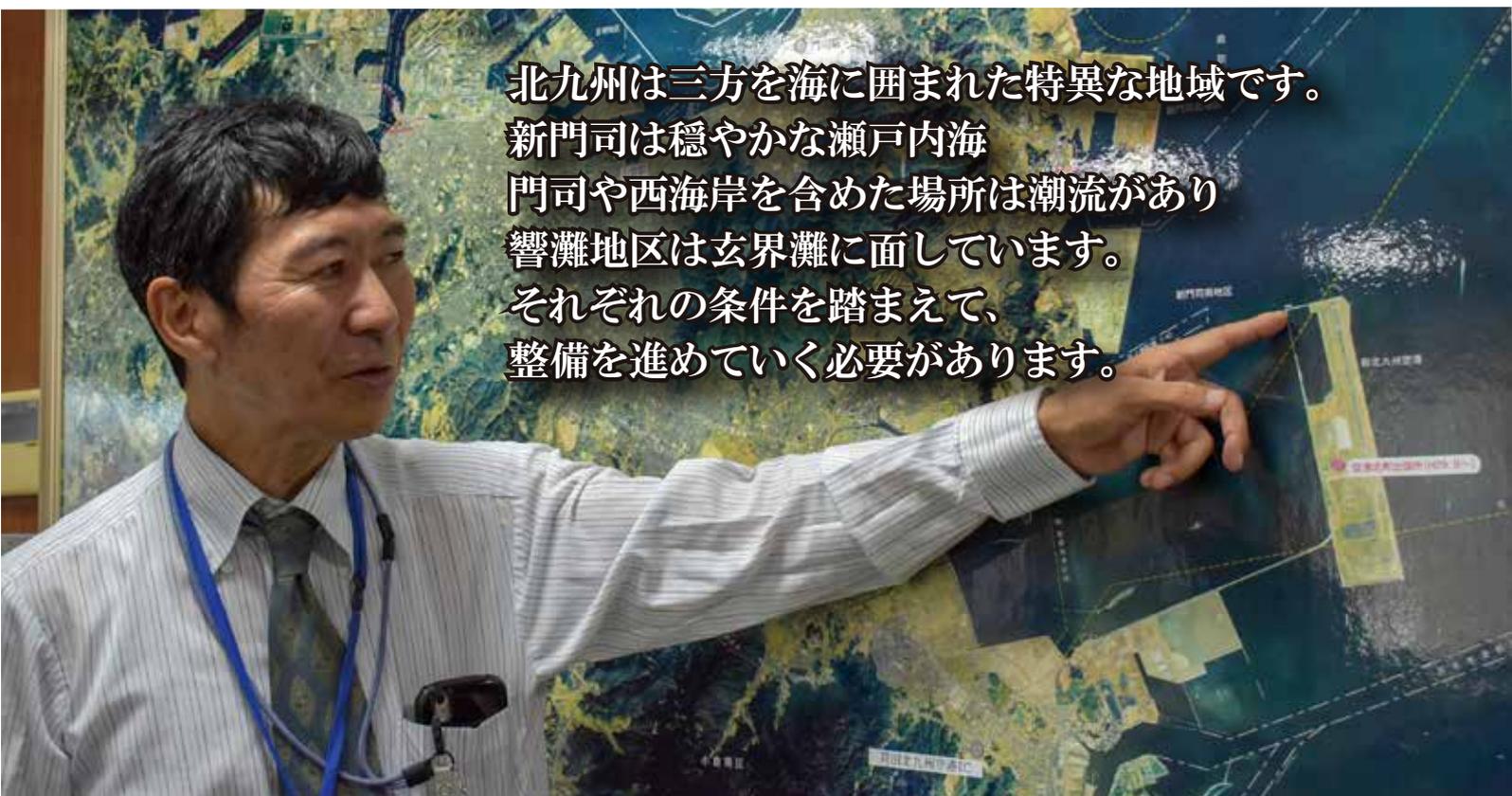
今年度の事業概要

Q 今年度の事業概要



▲福岡航空基地 北九州空港南端に新設

今年度に当事務所が主に力を入れている事業としては、過年度に引き続き実施している新門司沖土砂処分場(Ⅱ期)の整備です。現在は護岸築造のための地盤改良工事及びブロックの製作を行っており、来年度には南護岸及び東護岸の一部が海面上に姿を現す予定となっています。また新門司地区においては、令和3年度に新たに横須賀港とフェリー航路が結ばれる事もあり、航路と岸壁の整備を進めているところです。さらに響灘東地区において、老朽化した岸壁(-10m)の対策事業を行っております。重点的に取り組んでいる事業としてはこの3つが挙げられますが、この他にも前述の通り第七管区海上保安本部の航空基地移転に伴う誘導路・エプロン整備などを実施しております。



北九州は三方を海に囲まれた特異な地域です。
新門司は穏やかな瀬戸内海
門司や西海岸を含めた場所は潮流があり
響灘地区は玄界灘に面しています。
それぞれの条件を踏まえて、
整備を進めていく必要があります。

Q 地域との連携・協働について

今年度は門司港が国の特別輸出港に指定されて130周年。さまざまな開港記念事業が計画されていますが、その中のひとつとして「みなとオアシス門司港」の登録証交付式を実施いたしております。

また、講演活動や、事業説明会、「門司を美しくする会」の清掃活動など、地域住民と、港の役割について考えるきっかけを作っていきたいと考えます。

すべての人が海とみなとに親しみを持ち、健康増進にも役立つことで、みなとに賑わいをもたらす社会貢献活動として実施されているのが「好きっちゃみなとスロージョギングの会」で、令和元年11月で51回目の開催となります。北九州港においては、事務局と市の港湾空港局の職員が協力してコースづくりを行い、毎月第4土曜日に北九州港近隣エリアの海沿いの道を歩くほどの速さで走っています。

参加者には、港の知識も増え、さらに健康増進に役立つと好評です。

地域住民と触れ合う貴重な機会が得られる「港のにぎわいづくり」のイベントには、当事務所職員も積極的に参加を行っています。

Q 地域建設業への要望・メッセージ

日本の人口が減少局面に入ってしまった今、特に若手技術者の確保が極めて重要です。地域建設業界の皆さまには、若手人材の確保のため、積極的に行動していただきたいと思っております。

港湾・海洋関係の土木技術者は地域産業の発展や国土保全の観点からも不可欠です。学生を対象とした現場見学会を実施するなど、若い人たちへの働きかけを進めていただきたいと考えています。

道路や河川は仕上がったものが目視で確認できるものが多いのですが、港の仕事は目に見えない部分が多いです。

たとえば浚渫は、通航する船舶が船底を海底面にぶつけたりしないようにするため、浚渫船という船を使い海底の土砂を取る工事です。航路や泊地を整備するための大事な仕事ですが、外からは何も見えな

いのです。しかしながら、技術力の求められるスケールの大きな仕事であり、そうして造ったものは港及びその周辺の地域の社会経済活動や安全を守る誇らしい仕事となります。

Q 趣味や健康法について

趣味の一つとして、赴任先の近くにある「秘境駅」を訪れることが挙げられます。酒田や高松に勤務していたときも、いくつか「秘境駅」と呼ばれる駅を見に行きました。さすがに北九州は大都市なので遠くまで足を伸ばさないと難しいですが、過去に赴任先で見た景色は今でも覚えています。可能であればこちらでもどこかに行ってみようと思います。

また景色を堪能するために車を走らせるのも好きですが、時には「道そのもの」を目的としてドライブを楽しみます。酒田にいたときは、今では日本で唯一となった未舗装国道の458号を走ったり、階段国道として有名な国道339号に行きました。

イベントに参加することも多いので、自分なりの方法で筋トレを行い、体力維持に努めています。



▲みなとオアシス門司港登録証交付式



▲第34回ミニ・ミニ・トライアスロン大会（令和元年8月）
前方左から2番目

プロフィール



出身地：愛知県一宮市
生年月日：昭和37年2月20日（57歳）
H2年4月 運輸省 港湾局 建設課採用（第四港湾建設局 下関調査設計事務所）
H3年9月 運輸省 第四港湾建設局 企画課
H5年4月 運輸省 港湾局 環境整備課 海域環境対策室 係長

H8年3月 外務省 在パナマ日本大使館 二等書記官
H11年4月 運輸省 第五港湾建設局 技術課長
H13年1月 国土交通省 総合政策局 国際協力課 課長補佐
H14年10月 関西国際空港（株）建設事務所 調査役
H17年7月 国土交通省 中部地方整備局 港湾空港部 地域港湾空港調整官
H18年12月 国土交通省 東北地方整備局 酒田港湾事務所 所長
H21年4月 国土交通省 総合政策局 総務課 国際業務室 国際協力官
H22年7月 国土交通省 四国地方整備局 高松港湾・空港整備事務所 所長
H25年1月 四日市港管理組合 経営企画部 理事
H28年4月 （一財）港湾空港総合技術センター 研究主幹
H29年4月 運輸安全委員会 参事官付事故防止分析官
H30年4月 （一財）運輸総合研究所 主任研究員
R元年7月 現職